

組み立てを考えて書く力を育てる

尾道市立栗原北小学校 高瀬 郁香

1 実践の趣旨

4月当初、本学級の児童は2年生の段階で「はじめ・なか・おわり」の組み立ては学習しているものの、「はじめには5W1Hを書く」というように、教えられた組み立てにただ当てはめて書いている児童がほとんどであった。また、児童の書いた日記をみると「なか」と「おわり」に書いた内容が一致していないものが多く、伝えたいこともあいまいであった。

そこで、今年度は、文章の組み立てを考えて書かせることに重点を置き、実践を行った。

その結果、3回の主な授業実践を通して、児童は文章には伝えたいことがあることや伝えるための組み立てがあることに気付くことができた。そして、日記やスピーチなど、書いたり話したりする場面において組み立てを考える姿が見られるようになった。

2 実践の内容

(1) 実践の概要

3回の主な授業実践の概要は以下の通りである。

実践1 クラスのしょうかい文を書こう (6月)

伝えたいことを決め、伝えたいことに合った事例を選択して文章の組み立てを考えさせることで、「伝えたいこと」が明確な文章を書かせる。

【使用した組み立て】(説明文「自然のかくし絵」東京書籍 3年上)

はじめ「伝えたいこと」

なか 「事例」

おわり「伝えたいこと」

実践2 「わたしの研究レポート」を書こう (10月)

上位項目・下位項目を認識し、調べた三つの遊びについて項目を統一させる組み立てを考えさせることで、読み手に伝わりやすい文章を書かせる。

今までに学習した組み立てと比べながら、同じ「はじめ・なか・おわり」でも様々な組み立てがあることに気づかせる。

【使用した組み立て】(「わたしの研究レポートを書こう」東京書籍 3年下)

はじめ「調べたわけ」

なか 「調べたこと」

おわり「わかったこと」

実践3 友だちしょうかい文を書こう (12月)

書かせたい文章と題材の違う文章をモデル文として扱い、モデル文の組み立てを読み取ってその組み立てを使って書かせる。

【使用した組み立て】(説明文「とんぼのひみつ」学校図書 3年上)

はじめ「書き出し・問いかけ」

なか 「事例」

おわり「伝えたいこと」

(2) 実践の詳細

実践1 クラスのしょうかい文を書こう (6月)

クラスの紹介文を書き、それをクラスの紹介ブックとしてまとめ保護者に読んでもらうという学習活動を設定した。

ねらいは、伝えたいことを決め、伝えたいことに合った事例を選択して文章の組み立てを考えさせる

ことで、「伝えたいこと」が明確な文章を書かせることである。

まず、一次で3年1組はどのようなクラスかを全員で考え「3年1組ってどんなクラス？」としてまとめた。それから、このクラスのどのようなことを保護者に伝えたいかを考えさせ、各自に「伝えたいこと」を決めさせた。そして組み立てを考える授業では、説明文「自然のかくし絵」で学習した、はじめ「伝えたいこと」・なか「事例」・おわり「伝えたいこと」の組み立てを提示し、自分の「伝えたいこと」に合う事例を「3年1組ってどんなクラス？」から選択する学習を行った。

3年1組ってどんなクラス？

- 3年1組ってどんなクラス
- 給食をよく食べる
- 休め人が少ない
- けんどうかんどうで、元気が多い
- おもしろい話をする人がたくさんいる
- よくしゃべり
- 休めい時間にながやく遊ぶ
- 男子を女子がやる
- 忘れ物をやる人が多い
- おしごとをやる人が少ない
- そうじの時短して早く帰りたい
- 教室のすぐそばに半田がある
- 「まじろ」をたくさん作る
- 「まじろ」が大好き
- 音楽をやる
- 早くそうじが終わると前の場所を立つ
- 自分の係ではよく仕事を任う人が多い
- 休め人がいたが、れんれんも手紙を書く人がいた

児童のワークシート

伝えたいことに合う事例を選択

おわり
なか
はじめ

完成した「クラスの紹介ブック」

思いやりクラス 三年一組

「みなさん、思いやりがないクラスだと思えますが、でも、ほんとうは、思いやりがあるのです。」

「さいしよは、一人に声をかけてさそい合っ
てあそぶのができませんでした。でも、一人
に声をかけることが出来るようになりました
ほかのかかりのし車をあつたのが、あんな
まりで、まじめに、だけじ、あつた、あんな
なんだか笑しくなりました。」

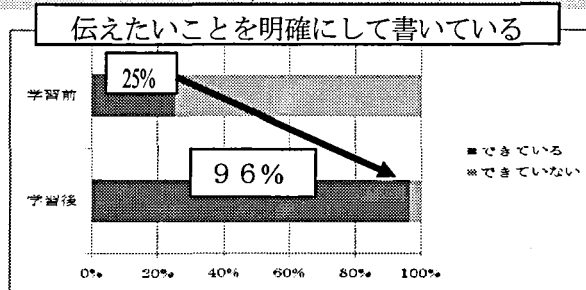
「こまっ、こいる人をたすけるのが、あんまり
いませんでした。でも、たすけたら友だちが
いっばい、まじめに、いっばい、たすけるし、
いっばい、友だちができました。」

「三年一組は、思いやりがあるクラスです。
四年生になっても、思いやりが、いっばいある
クラスでいたと思います。」

伝えたいこと

伝えたいこと

その結果、「伝えたいこと」を明確にして書くことができた児童は96%であった。また、「伝えたいこと」に合った事例を文章に入れて書くことができた児童も96%であった。どちらも学習前の25%から大幅に向上した。



実践2 「わたしの研究レポート」を書こう (10月)

遊びについて調べたことを「わたしの研究レポート」にまとめ、4年生に伝えるという学習活動を設定した。

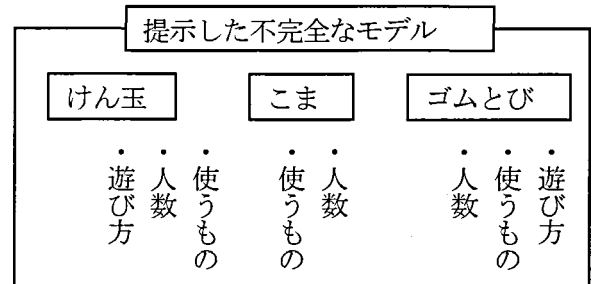
ねらいは、上位項目・下位項目を認識し、調べた三つの遊びについて項目を統一させる組み立てを考えさせることで、読み手に伝わりやすい文章を書かせることと、今までに学習した組み立てと比べなが

ら、同じ「はじめ・なか・おわり」でも様々な組み立てがあることに気づかせることである。

組み立てメモを各自で作成する前に、不完全なモデルを提示し、全体で意見交流する場を設定した。

不完全なモデルを使って児童に気付かせたい内容は、次の3点である。

- ・ 大事な情報が入っていないこと
- ・ 三つの小項目の順序性がないこと
- ・ 調べた三つの遊びの間で項目の統一がないこと



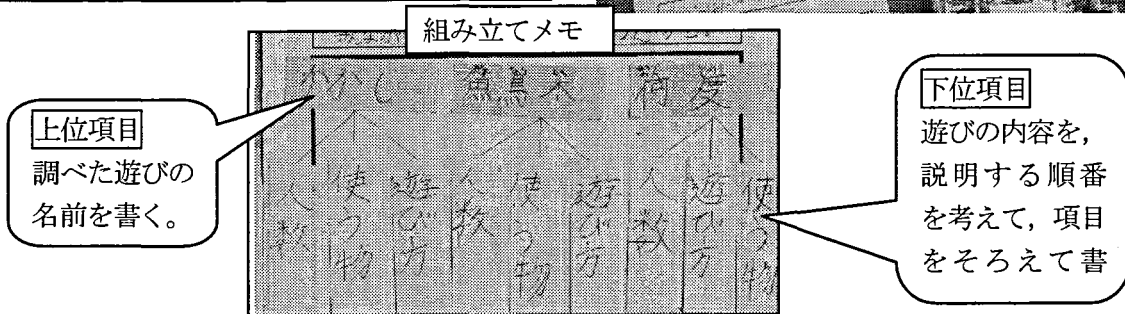
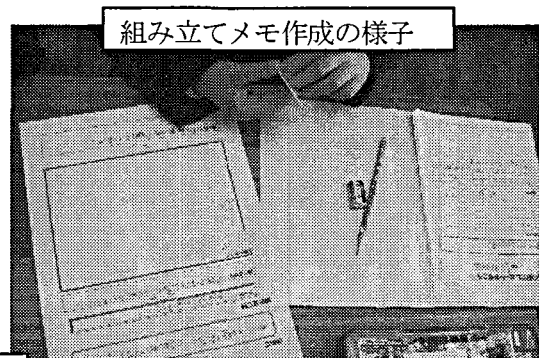
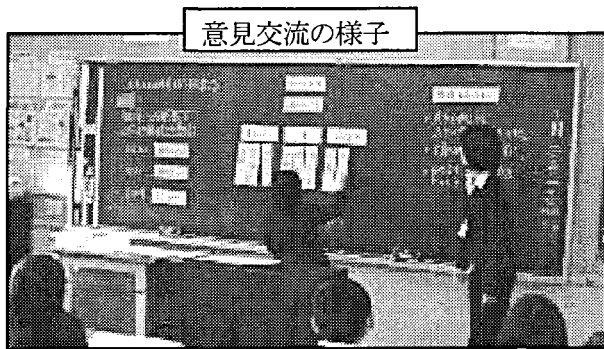
意見交流の中で、次のような発言があった。

「こまにも遊び方があるから、書かないといけないと思います。」

「小さい内容の順番がそろっていないから、そろえた方がわかりやすいと思います。」

「遊び方が先ではなくて、人数・使い方が先の方がいいと思います。」

意見交流を通して項目の統一や順序性に気付くことができた。そして、児童は自分の調べた遊びについて、項目の順序性や項目の統一について整理することができた。



その結果、82%の児童が上位項目・下位項目を認識し、調べた三つの遊びについて項目を統一させて組み立てメモを作成できた。また、今まで学習した組み立て「招待状」「自然のかくし絵」「クラスの紹介文」と比較し、「今までの組み立てとはちがう」など、研究レポートを書くときの組み立てを発見した発言をした。

実践3 友だちしょうかい文を書こう (12月)

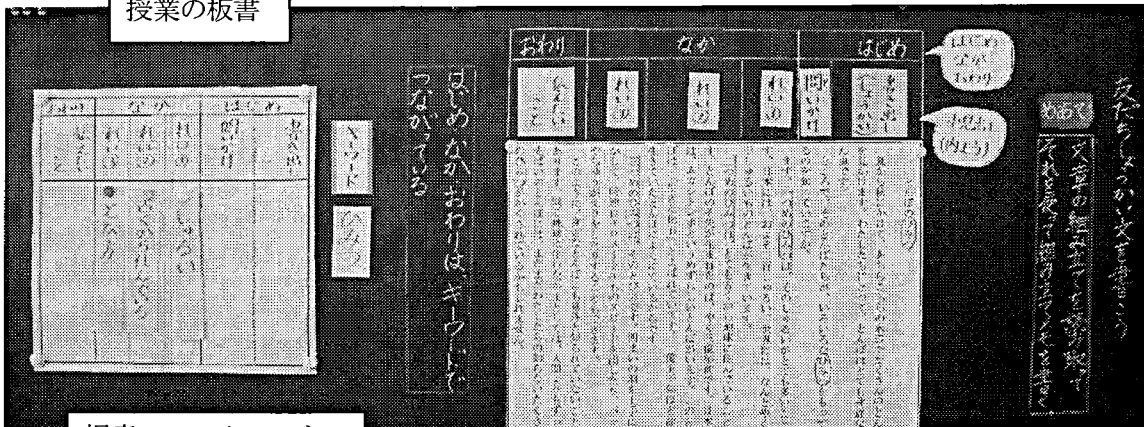
クラスの友だちのよいところを見つけ、ペアで作文を書きあってクラスみんなに紹介し合う学習活動を設定した。

ねらいは、モデル文の組み立てを読み取ってその組み立てを使って書かせることである。そのために、書かせたい文章と題材の違う文章をモデル文として扱った。

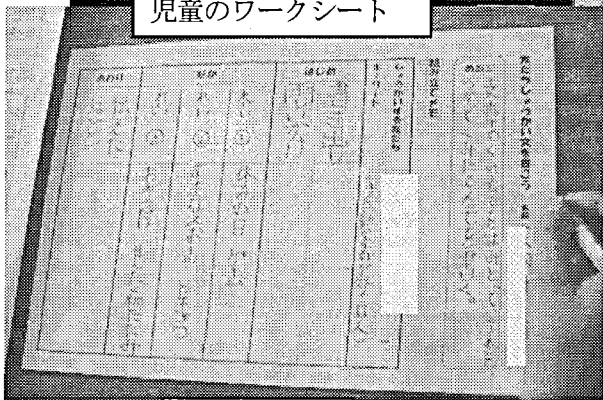
まず、教材分「とんぼのひみつ」を読み、どのような組み立てになっているかを整理した。そして、「ひみつ」というキーワードで文章に一貫性があることを押さえた。その後、各自でワークシートに友

だちしょうかい文の組み立てを考えさせた。

授業の板書



児童のワークシート



読み取った組み立てをもとに「友だちしょうかい文」の組み立てを考えてワークシートに書くことができた児童は、85%である。文章の内容がモデル文とは異なるため、組み立ての意味を理解して活用することができたと判断する。

児童の作品をみると、モデル文「とんぼのひみつ」の組み立てだけでなく、文章表現も生かして書いている児童が多かった。読みとった内容を自分のものにして友だち紹介文に生かしていると判断する。

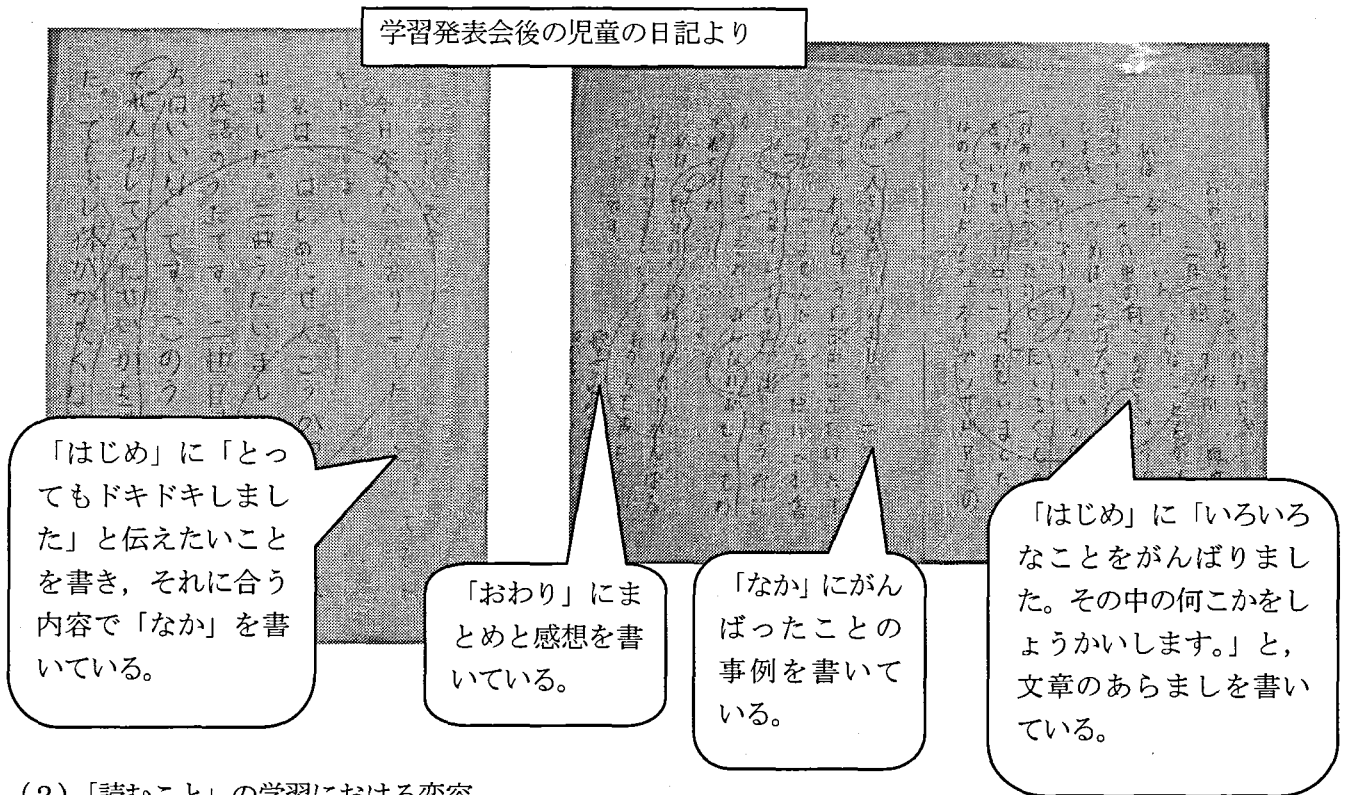
児童の作品

書き出し	問いかけ	れい①	れい②	伝えたいこと	書き出し	問いかけ	れい①	れい②	伝えたいこと
心いやされるAさんのえがお	三年一組	Aさんはいつも幸せそうです。よねぎつし多くの時間にはおもしろいおかしなやぶごはんを食べています。	とここでAさんがおもしろいときや遊ぼうとすは、友だちをほめます。友だちがいないたり、元気がない友だちに、「だいじょうぶ」と声かけやせなかをさす。たりしてあげるときに、Aさんがあつて友だちをえがおにさせて、元気なところを友だちにつけてあげています。	Aさんは本当はやさしい人なことがわかりました。さいごは、いじょうけんめいにしたことをやりとげたときです。土月十日のいき、うそつでも六週はしりあつたとき、えがおになっています。ぼくはAさんはつかれてるのにえがおにたっているのがとてもAさんらしいな、と、ぼくは思いました。	このように、Aさんは、ただわらっているだけでなく、ときには人をほめました。Aさんらしいすかたを見せたりもするのです。Aさんには、またまたやさしいところがあるのかもしれない。	事例とまとめを関連させて書いている。	教材文の書きぶりを生かしている。	書き出しと問いかけにギャップを持たせ、興味を引く組み立てにしている。	

実践の結果

(1) 日記の変容

4月当初の児童の日記は、「5W1Hから始まり順序立てて書く」というものがほとんどであった。しかし、実践後は、伝えたいことを決めてそれに合った内容を選んで書いているものなど、組み立てを工夫して書いているものが増えた。



(2) 「読むこと」の学習における変容

「読むこと」の学習において、組み立てを読みとることが以前よりもできるようになった。

説明文「もうどう犬の訓練」において「この説明文ははじめ・なか・おわりはどうなっているのでしょうか」と発問したところ、以下のような意見交流があった。

「もうどう犬の訓練だから、『なか』には訓練のことが書いてあると思う。だから○段落までが『はじめ』だと思う。」

『訓練がはじまるのです。』と書いてあるから、まだ訓練ははじまっていない。だから、ここまでが『はじめ』だと思う。」

「さいごの段落は、伝えたいことが書いてあると思う。」

このように、組み立てを考えて文章を書く活動をしてきたことで、文章から組み立てを読み取る力も付いてきた。

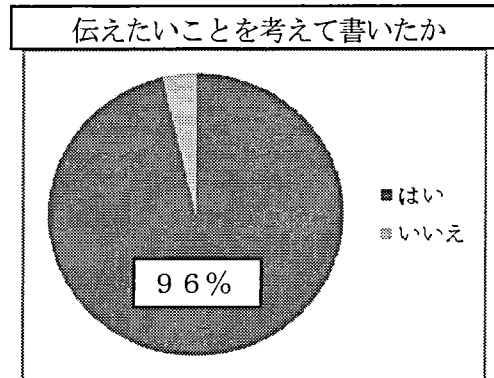
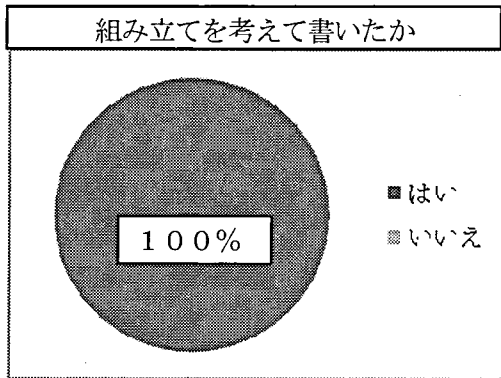
(3) スピーチの場面における変容

毎朝一人ずつ行っているスピーチの場面で変容が見られた。

聞き手が組み立てを意識して気付くようになった。例えば発表者の内容とまとめにずれがあったとき、「ええ、それは楽しくないよ。どういうところが楽しかったの?」という発言があった。

また、スピーチの内容がわかりにくかった発表者に「まとめがなかったから付け加えてごらん。」「内容に合ったまとめにするとどうなるかな。」と声かけをすると、スピーチの内容を組み立て直して発表することができるようになってきた。

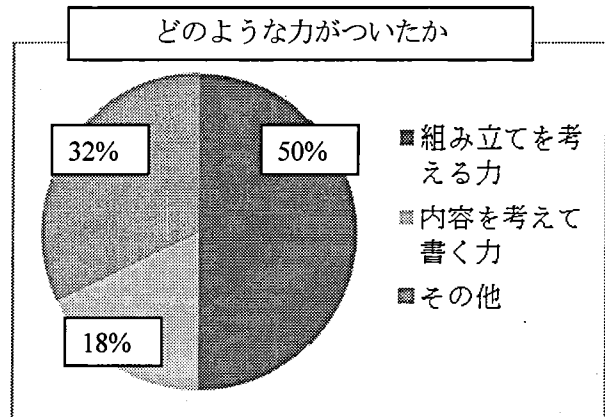
(4) 児童の振り返りカードより



児童の振り返りカードでは、「組み立てをを考えて書いたか」において「はい」と答えた児童は100%であった。また、「伝えたいことを考えて書いたか」において「はい」と答えた児童は96%であった。児童が組み立てや伝えたいことを意識するようになったと考える。

また、「この学習でどのような力がつきましたか」という問いに対して、全員が記述すること

ができた。記述内容は、「組み立てを考える力」が50%、内容を考えて書く力が18%、「その他」（文章を読み直す力、漢字を使って書く力、書く力）が32%であった。このことから、児童は学習をしたことで自分に書く力がついたと感じていることが分かる。



4 成果と課題

- 伝えたいことを明確にし、組み立てをを考えて書くことができる児童が増えた。
- 3回の実践を通して、「伝えたいことを考えて書くこと」「項目の順序性や統一」「上位項目・下位項目の認識」「事例とまとめの一貫性」など、児童に組み立てをを考えて書かせるために何を指導したらよいかを具体的に考えることができた。
- 組み立てメモを書くときに、自分の書きたいことを「小見出し」という形で短くまとめて書く必要があった。それには「はじめ・なか・おわり」や「事例・伝えたいこと」などの上位概念と、「小見出し」という上位概念の具体、さらには「具体的記述内容」下位概念を頭の中で整理できることが必要であった。それは一部の児童にとっては非常に難しいことであり、このことは文章の組み立てを考えることにおいて大変重要であることがわかった。児童が上位概念・下位概念の認識を持てるような指導を工夫したい。
- 取材、組み立て、記述を関連付けながら一つの文章を書いているという意識はまだ十分でない。組み立てメモはできても、記述になると手が止まってしまうたり内容がずれてしまったりする児童が数名いる。取材から組み立て、記述を、文章を書くときの流れとして捉え、時には組み立て直したり取材し直したりと思考しながら書くことができるようにさせたい。